



「りんりん」の前で、石田・森川 両市議

検討の入口は「給食」、
出口は「弁当」



本当の中学校給食を

すずか 民 報

第119号
2005年1月9日

日本共産党鈴鹿市議団
04市議会報告

期待「らぎる」ランチサービス

一昨年、川岸市長が鈴鹿市でも「中学校給食」の実施を検討すると表明し、教育委員会が「検討委員会」をつくって議論をすすめてきました。

ところが9月に出された答申は、「希望する生徒に弁当を販売する」という、期待はずれのもので、小学校のような完全給食を求めてきた市民から批判が続出しています。

教育委員会は今年から「ランチサービス」として実施する準備を進めています。この

方式は市はメニューの作成と学校での注文の受付、弁当の配布だけを行ない、弁当は民間業者が作ります。生徒は「の弁当か、家庭からの弁当か、パン販売から選ぶことになりました。」

父母のねがいは「完全給食」

9月議会で森川議員、12月議会で石田議員が、この「ランチサービス」を批判し、再考を求めましたが、教委はこの4月から3中学での試行をス

タートさせる姿勢を変えさせん。教育長は「手作り弁当を持つてこれられない家庭への、子育て支援」と強調し、また生徒にアンケートで聞いたなら

「弁当」の希望の方が多かったことを理由にあげました。しかし父母へのアンケートでは、「小学校のような給食」という希望が63%もあるのに、これはまったく無視してしま

「子育て支援」と言いながら肝心の親の声を聞かない姿勢からは、最初から「弁当ありき」、給食のための財政負担をしたくないという意図が見えています。

また、弁当をとる生徒は全体の6%しか予定していないこと、小学校の給食費220円と比べて1食400円という高い負担も問題です。

こんな施設を市内各地に

8月に御園町・清掃センター

隣にオープンした「子育て支援センター」、愛称「りんりん」がたいへん好評です。毎日70組以上の親子がやって来て、

にぎわっています。気兼ねなく安心して子どもを遊ばせる場所、子育て情報や心配ごと相談のセンターとして、若いお母さんたちに喜ばれて

遊休施設を 転用すればできる

この「りんりん」は壊す予定だった、鈴が谷厚生センター」を、方針転換して改造し、わずか1年で出来たものです。早く市民の願いに答えることができ、予算も安くすみまし

た。市民からは、一カ所だけでなく、「もっと近くにも作って」の声があがっています。

森川ヤスエ議員は、市内の遊休施設や役割を終えた建物を、子育てや青少年、高齢者のために有効活用することを、12月議会で提案しました。例えば勤労青少年ホーム(白子)を中高生にも拡大する、閉まっている花植木センター(加佐)を転用するなどです。

小学校給食も迷走はじめる つじつま合わせの「親子方式」に

旭が丘小学校の建て替え計画の中で、先に給食室をこわすことから、奇妙な対応策がとられます。旭が丘の一千食の調理を給食センターに移行するために、清和・明生・井田川の3校分がセンターで出来なくなり、苦肉の策として「白子 清和」「鼓ヶ浦 明生」「石薬師 井田川」を親子方式として、それぞれ配送車で運ぶといつのです。

センター建て替えせず 先に給食室「わす

この方法では配送車3台など余分な経費が年1千5百万円もかかります。しかも、



老朽化し建て替えが迫られる飯野給食センター

改築すべき給食センターのめどが立っていないので、いつまでも続くのかも分かりません。そもそも鈴鹿市は、給食をすべてセンター方式にしてしまつ方針で、旭が丘の給食室をなくすのもその一環ですが、老朽化したセンターの建て替えをスルスルと先送りして、手順を逆さまにしてしまい、ムダな手間と出費を迫られています。

12月議会で共産党市議団は、「旭が丘の給食室を当面残し、先にセンターの建て替えをすること」を求めましたが、市教委はそのまま進める予定です。



閉鎖している花植木センター(フラワーパーク前)

工事入札の改革さらに進む

予定価格の4%引下げを試行

「談合」疑惑の絶えることのない公共工事の入札、共産党市議団はその改革を一貫して提案してきました。一昨年の新庁舎建設工事の入札に、鈴鹿市は初めて「予定価格」を設計額より10%下げる「工事希望価格」を取り入れ、その結果11億円も予算の節約ができました。

共産党市議団は、高値落札のつづく大きな工事に「希望価格」を本格採用することを求めました。そして10月から、4千万円以上の工事を対象に、設計額の96%を予定価格にする試行が始まりました。これまでの平均落札率は92%台とそれなりの成果が上がっています。



工事の進む新庁舎建設現場

高額な市長退職金、見直しへ

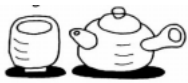
在職4年で2116万円、市長の1期分の退職金は高すぎるではないか？6月議会で石田議員はその見直しを求めました。川岸市長は、「議員から提案される前から見直しを考えていた」と答弁、条例改正を約束しました。



石田秀三 市議

特別職の退職金支給割合(1期4年)

市長	20ヶ月
助役	14ヶ月
収入役	10.8ヶ月
教育長	10ヶ月
水道局長	8.8ヶ月



県下一の高い国保税

今年から引き下げに

2年連続、30%も値上げされた国民健康保険税は、一人当たり税額で県下一位という高さになりました。一方、払えない市民がふえて、税の収納率は県下66位、ビリという不名誉な順位になりました。(国保連合会の統計)

この異常な値上げに反対し、議会のたびに引き下げを求めてきた共産党市議団は12月議会で改めて、「ワーストワン」返上を川岸市長に求めました。さすがに市長も引き下げの検討を表明し、議会後に

開かれた国保運営協議会で、来年度からの引き下げ案が決定されました。

今回の引き下げ案は別表のとおりで、平均5%ほどですが「軽減適用」を広げるので、低所得世帯に厚くなっています。

しかし、引下げといっても2年前の大幅値上げ前の水準よりは高いので、依然として払うのが困難な状態は変わりません。各世帯の実情に応じた、市独自の減免制度を広げていくことが必要です。

Cバスの支線が2ルートで運行開始

12月24日から、西部地域Cバスの支線が走り出しました。Cバス本線とJR加佐登駅で乗り換えて、「さつき温泉」にも行ける「広瀬上田線」と、「スパー」一号館で乗り換えて西部を回る「鈴鹿IC北部循環線」です。

さらに来年度には、国府や天名・合川など市西南部ルートの運行開始に向けて、準備が進んでいます。



Cバス「鈴鹿IC北部循環線」のワゴン車

国保税改定案(医療分)

	現在の税率・額	改定案の税率・額
所得割	9.0%	8.2%
資産割	2.0%	2.0%
均等割	29,500円	30,000円
平等割	29,500円	30,000円

国保税引き下げの具体例(医療分)

	現在の税額	改定案の税額	引下げ率
所得33万円・2人世帯	35,400円	27,000円	23.7%
所得103万円・4人世帯	151,500円	132,400円	12.6%
所得350万円・4人世帯	432,800円	409,400円	5.3%

(注・資産割、介護負担金は含まない)



森川ヤスエ 市議

固定資産税、なぜかからない？

12月議会で石田議員は、芝参院議員の自宅(山本町)が「宗教施設」だとして、固定資産税が「非課税」になっているのはおかしい、実態に即した課税をするべきだと求めました。名義が椿神社になっても、普通の住宅として使っているなら課税が当然です。



これが宗教施設？芝議員の自宅

少人数授業のための先生確保を市の施策として続けて

30人学級実施がまだ小学2年生までといつなまで、非常勤講師の加配による「少人数授業」が小中学校で行なわれています。鈴鹿市でも30人の講師が採用されています。ところが、この先生たちは国の「緊急雇用対策」という予算で雇用されているため、制度がなくなる17年度からの方向が不明です。

森川議員は12月議会で、今後市の施策として少人数授業を続けることを求めました。教育長は、継続に向けて努力することを表明しました。

